

平成21年11月定例教育委員会会議録

平成21年度塩尻市教育委員会11月定例教育委員会が、平成21年11月20日、午後1時30分、塩尻総合文化センター、102・103会議室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
 報告第2号 12月の行事予定等について
 報告第3号 後援・共催について
 報告第4号 平成21年度事業通知票上半期取組み状況について

4 議 事

5 その他

- その他第1号 教育委員会関連例規改正（案）について
 その他第2号 平成21年度教育委員会関係補正予算（案）について
 その他第3号 全国短歌フォーラム学生の部について

6 閉 会

○ 出席委員

委員長	百 瀬 哲 夫	職務代理者	丸 山 典 子
委 員	村 田 茂 之	委 員	田 中 佳 子
教育長	御 子 柴 英 文		

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	平 間 正 治	こども教育部次長 (教育総務課長)	加 藤 廣
こども課長	小 島 賢 司	家庭教育室長	小 澤 和 江
生涯学習部長	大 和 清 志	生涯学習部次長 (社会教育課長)	白 木 進
生涯学習部次長 (平出博物館館長)	小 林 康 男	文化財担当課長	渡 邊 泰
芸術文化担当課長	平 林 雄 次	スポーツ振興課長	(欠 席)
男女共同参画課長	畠 山 伸	人権推進室長	小 穴 利 美
市民交流センター長	田 中 速 人	市民交流センター 次長(図書館長)	(欠 席)
総務課長	(欠 席)	市民活動支援課長	(欠 席)

○ 事務局出席者
教育企画係長

青 木 正 典

1 開会

百瀬委員長 それでは、おそろいようですので、ただいまから11月の定例教育委員会の会議を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは、次第に従いまして、2番、前回会議録の承認からお願いいたします。事務局から説明をお願いいたします。

2 前回会議録の承認について

青木教育企画係長 前回10月定例教育委員会の会議録につきましては、御確認をいただきましたので、本定例会終了後に御署名をしていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

百瀬委員長 ということであります。委員の皆さん、よろしいでしょうか。それでは、そのようにお願いをいたします。

3 教育長報告

百瀬委員長 次第の3番、教育長報告に入ります。教育長から総括的にございましたらお願いします。

御子柴教育長 よろしくお願いします。この時期になると学校などでは、小学校、中学校、いろいろな研究発表等、授業公開等今まで研究してきた発表があります。数日前には丘中で国語の研究発表があり、昨日は吉田小学校で人権学習の発表がありましたが、東京あたりからも参観者、研究への参加者がいました。吉田小学校ではあいさつを題材にした人権教育の発表でしたので、今、吉田小学校の短歌が総文のホールに貼ってありますが、あいさつのことを詠んだ短歌があるかなと行って見たところありましたので、その中で2首ほど紹介いたします。

あいさつがすごい聞こえるうれしいなありがとうとかおはようなどの

あいさつがすごい聞こえるうれしいなありがとうとかおはようなどの

もう1首は、君と僕50年後も大きな声であいさつをして仲よく遊ぶ

君と僕50年後も大きな声であいさつをして仲よく遊ぶ

研究授業は、50周年記念もとらえての子どもたちの学習だったので、50年後というこの子どもたち、およそ60歳前後ということで高齢化がますます進んで、小さい頃からの友達が、年をとっても声をかけたりして遊んでいるというような光景を浮かべながら見させていただきました。そこで、先ほどの短歌を吉田小学校の研究授業の開会行事のあいさつで逆に発表させていただいて、短歌の学習と50周年記念、それから人権学習とつながっているというようなお話をさせていただきました。

その短歌ですが、今、お聞きになって何年生の作品かなと、皆さん思われたでしょうか。実は小学校の2年、3年生なのです。そう言われれば、そういう感じかもしれませんが、しかし、反面、短歌を学習しないとこういうものはできないという、学習の成果というようなことも十分表れている内容だなと思いました。ほかにも自然を題材にしたり、レタス、ぶどうなどの農作物、あるいは平出遺跡等々を詠ってある短歌がありました。

また、全然別なことなのですが、18日には、教育行政懇談会がありました。PTAの方も参加して、委員の方々にも御出席をいただいて行われました。また、昨日は、区長会長さんとの理事者懇談会というものがあるって、それぞれ地域の代表の方々が、教育、または区長会長さんの場合には、地域の道路状況とか、踏切の状況とか、そういうようなことも含めて市政に対する御意見をいただいたり懇談をしたりという機会がありました。私は行政懇談会のときに、実は、義務教育費国庫負担制度というものを話し合おうと思ったのですが、時間が途中で具体的な例までいかなかったもので、最近考えていることということで、少し聞いていただいたり、御理解いただければと思います。あのときに、現在、47都道府県で小中学校、中学ですけれども、中学の学級編成が、今、40人

学級編成なのです。長野県の場合も小学校は、今、35人になっているわけです。47都道府県の中では、すでに32の道県が中学1年生で35人学級をやっている。残った十数県等がまだしてないので、この編成基準を決めるのは都道府県ですから、県のほうなどへ働きかけてほしいということとを会議があるたびに申し上げております。

例えば、こんなことなのです。115人の子どもが入学してくるというときに、これは中学生3学級編成で、38人、38人、39人という学級ができるわけです。それを35人編成として、1つだけクラスを増やせば、なんと28人、29人、29人、29人という学級になる。これは、学習効果から言うと、30人前後というのが非常にいい数字、25人から30人ちょっとくらいがいい数字だと言われているので、推し進めることが非常に大事ではないかと感じております。

もう1つ、185人という例をとってみますと、185人が入ってくる学校があるとすると、これは5学級で37人、37人、37人、37人、37人ですか、37人が5学級。ところが、1学級35人編成にして1学級増えると、なんと、30人、31人、31人、31人、31人という学級になるという極めて理想に近い学級編成になるということで、長野県もここへもう入り込んでいかなければいけないのではないかなと思っています。そここのところの狭間を埋めるべく、特に塩尻市では、少し十分でないところに教員配置をして加配をしているということで、PTAの方々がいる席だったので、ぜひ、何かの会議等のときには発言をしたりして推し進めるべく力をお貸しいただきたい、協力していただきたいと思いました。そうしたら、今日、新聞を見ていたら、全く別の観点ですけども、人間はお互いの距離が近くなるとストレスが強くなるとありました。動物的に一定の距離以下になると攻撃的になるという言葉が載っておりまして、これだというふうに思いました。学級編成は、やはり40人も詰めてはいけないう。ぎゅうぎゅう詰めでやっているからストレスも強くなる。しかも、攻撃的になって落ち着いた学習の雰囲気にはならないというようなことまで、違った面から考えたわけでありまして。最近考えているということで御理解をいただければというふうに思います。

3番目ですが、短歌フォーラムの学生の部については、あとでまたお話があると思いますけれども、中止をして違った形でやるということを考えているということでもあります。また、ほかの催し物について、今日は午前中の庁議の場で、インフルエンザに関する警報が出されているので、十分にマスク、手洗い等を心がけるという話とともに、子どもたちに関する、集まるものは極力中止にしていこうということです。安曇野方面ではそういうことをかなりはつきりと打ち出してきていますし、大人のものについては、今日もチラシが配られておりますけれども、非常に高価なと言いますか、お金のかかる講演会なども予定されているので、これについては配慮しながら実施していこうということです。12月には川島隆太さんという大変御活躍をされている講師もお呼びしてありますので、大体、こんな方向でやっていこうという指針が出されております。よろしく願いいたします。

百瀬委員長 ありがとうございます。今のお話の中で、もう少しお聞きしたいというようなことがありましたら、委員の皆さん、よろしいですか。これからあと協議会のほうもありますので。

○報告第1号 主な行事等報告について

百瀬委員長 それでは、次第の報告第1号、主な行事等報告についてに入ります。これにつきましては、すでにいただいてありますので、委員の皆さんから質問等がありましたらお願いしたいのですが、きょうは、お手元に追加ということで、豊かな心を育む市民のつどい。これは、過日、皆さんも御参加いただいたもので、状況はわかっていると思いますので、それも含めて何かありましたらお願いをいたします。

加藤こども教育部次長（教育総務課長） 今、追加で出させていただいて、豊かな心を育む市民のつどいの中の概要の中の1行目、見学をからになっておりますけれど、を、申し訳ございません、削除いただけたらと思います。よろしく願います。概要が真ん中にございます。作文の発表の見学から得た、を、見学を、をから始まっておりますので、申し訳ございません。

百瀬委員長 いかがでしょうか。

田中委員 生涯学習部行事の報告のほうで、第1回ぶどうの郷ロードレースのことについて、お話を少しお聞かせいただきたいと思います。小坂田のほうでしていたときには、子どもなども参加いたしまして、ロードレースを見に行ったこともあったのですが、今回、また、違う形で出させていただいて、今までの3倍の方に参加していただいたり、何よりも、県外、市外からの参加者が多かったということで、おもてなしの雰囲気ですとか、熱気とかが伝わってまいりまして、来年は参加しようかなと私自身が思えるような、そんな熱気のあるロードレースで良かったと思うのですが、参加と言いますか、イベントに協力された地域の方々の負担と言いますか、一緒に楽しんでやっていけばいいかと思うのですが、そういう点におきまして、後ほど取り組み状況のところにありますけれども、ボランティアの方が継続して協力して楽しんでいこうというような気持ちになっていただけるように、ほかのイベントでボランティアが参加して成功している会などの状況を伝えることによって、負担感がなく楽しくやっていかれるのではないかと思います。ひらいで遺跡まつりのほうでは、ボランティアのみで行っているように、後ほどの取り組み状況がありますけれども、これは、友の会の方がやってらっしゃるボランティアですかね。済みません、のちほどの話も含めてしまいまして。

百瀬委員長 ぶどうの郷のほうのボランティアは、いいのですか。

田中委員 済みません、話がいつもバラバラになってしまいまして。良い会だったと思いますので継続的にやっていただければと思いました。

百瀬委員長 それでは、ぶどうの郷のほうへ絞っていただいて、あとのことは、また、あとでお話していただけますか。

田中委員 ボランティアの方のやる気というか熱意がそがれないような取り組みもしていったほうがいいかなと思いましたので、それだけです。すみません、ありがとうございます。また、後ほど、お聞きしたいと思います。

百瀬委員長 何か、そういう声が聞こえましたか。ボランティアの方々の。

田中委員 聞こえたわけではないのですが、これだけ、何と言いますか、盛大におもてなしの心が前面に出ていましたので、会を続けていくにしたがって、負担感のように思われていかないように、せっかくでするので続けていかれるようにするには、どうしたらよいかというような支援があればいいなと思いました。

百瀬委員長 事務局で何か、お答えはありますか。

大和生涯学習部長 このイベントが終わったあと、それぞれの団体、それから実行委員会、全部集まっていたかまして、反省すべき点、良かった点ということを全部出していただきまして、それをまた全部の皆さんにフィードバックしまして、また、更に集めて、最終的に来年以降どういうふうやっていくかということでやっておりますので、よろしく御理解をお願いしたいと思います。

田中委員 また、のちほどお聞きします。済みません。

丸山職務代理 それに伴ってですが、参加者の数ですが、私はおりまして、もっとたくさんでも良かったとか、それから売店の果物は思ったよりも安くはないとか、そういう声が少し聞こえていて、参加者の方々からのアンケートとか、そういうようなものはとってあるのですか。

大和生涯学習部長 アンケートはとってございませんけれども、ランネットというホームページがご

ざいまして、そこで一目瞭然で、その日のうちに出ますので、それで見ると、おおむねいいのではないか。一番最初の方は98点くらいでしたけれど、100点満点で。50点の方もありましたですけれども、平均すると八十何点くらいで、非常に良かったというお褒めの言葉をいただいております。

村田委員 今の、参加された方のレスポンスを行う、その仕組みというものは、何とかネットと、今、おっしゃいましたけれど、教えていただけますか。

大和生涯学習部長 ランネットというものを調べていただくと。

村田委員 ランネット。

大和生涯学習部長 そのこのところに全国のロードレースの一覧があるわけなのです。

村田委員 そういうことですか。理解しました。

大和生涯学習部長 それをクリックしますと、ぶどうの郷ロードレースというのが出てきますので、それで見てもらうと、1人ずつ意見が載っているというもののなのです。

百瀬委員長 ランネット、カタカナでランネット。

大和生涯学習部長 そうです。

村田委員 たぶん、ランナーズネットということでしょうね。

百瀬委員長 ランナーのラン。そういうものがあるのですね。

大和生涯学習部長 その日のうちから出ましたので、なるほどなと思って。

百瀬委員長 よろしいですか。

村田委員 はい。

百瀬委員長 ほかにございますか。

丸山職務代理 今日いただいた、こども教育部、豊かな心を育む市民のつどいのほうですが、尾木さんの講演については、さまざまな立場の方から非常に良かったという話を、直接、私が伺いましたし、私自身もとてもいい内容だったなと思います。残念なのは、大勢の方に聞いていただけたら良かったかなと思いました。それが1点ですね。もう1点は、人権作文の寺沢さんですかね、とてもいい内容の作文でした。人権学習会を各地区ごととかで行いますね、そのときに子どもからの声というものはとても大きいと、私は思います。人権擁護委員さんのお話も、もちろん大切なのですけれども、実際に子どもがどういう感覚をもって人権というものをとらえているとか、作文からも特に戦争に対しての思いというのが、とても新鮮というか、もし、日本が勝っていたら今のような国ではなかったというような、あのようなはっきりした物言いは、私は、とてもさわやかに思いましたので、そういう、どうしても大人は旧態依然としているところがありまして、今の子供たちがどう思っているかということについてあまり感じてないようなところがあるので、それを地区ごとの人権学習会に子どもたちに許されるのであれば、そこで発表してもらおうとか、そういう取り組みも新鮮さがあっていいのではないかなとちょっと思いました。

百瀬委員長 いいですか。何か、事務局からお答えされることがあれば、なければいいです。

私も、今、もっと大勢の方に聞いてもらえれば良かったと思いました。私も、今、地域の子ども会育成会の役員を仰せつかってしまして、その関係で案内をいただきました。チラシも入っていて。どの関係の方にあのような案内を、今回、出していただいてあったのかなというのが、少し気になったものですから教えていただければ。

小島こども課長 一応、青少年関係団体、育成会とか、それから、補導委員には個別にお知らせを差し上げております。一番、子どもが来てほしかったのは、いわゆる現役の保護者世帯が一番狙いだったわけですが、会場を見まして大変そのところが少なかったなという大きな反省があります。そのこのところへ、どのように周知していったかということなのですから、一応、保育園、

幼稚園、それから小学校というところへ、チラシ、カラーではなかったのですけれども、一応、チラシを白黒で刷り回しをしまして、各子どもを通じて御案内をしたということなものですから、実際には、枚数はかなり出しているのです。なかなか、いわゆる趣旨と言いますか、思いが伝わらないというふうな状況が見てとれまして、ここまでの講演会も、実は、そのような傾向が強くて苦慮しているところでございます。何かうまい方法を、また考えたいと思いますけれども、一応、PRだけは、最低のものはさせていただいたというふうなところがございます。

百瀬委員長 ありがとうございます。

田中委員 その中で、今回、インフルエンザ等も流行っていきまして、学校でも、あまり集会のあるところに行かないようにということで、親御さんも気をつけられて、本当に私もお知り合いを何人か見かけただけなのですけれども、こういう有名な講師の先生も来たりなどして、本当は行きたいのだけれど都合上行かれないということもあるかと思いますが、よくテレビ松本などで合同音楽会等中継をされますけれども、そのような形で、会場へ出向かなくても視聴することができるような、今まで取り組み等ありましたでしょうか。

小島こども課長 講師の方によって、いわゆる講演内容を音で公開してもいいとか、映像を含めて公開していいということがございまして、もちろん、テープから起こして文書で公開してもいいというような、先生によって違いがございまして。今回は、直接、先生と企画段階からお話をしたのではなくて、間に、そういった講演会等を企画する会社、法人を挟んで交渉をさせていただきました。その中では、講演の開催場所限りというようなお話があったものですから、今回は、一応、記録のほうは残さずに対応させていただいたうなわけです。残せる部分、公開してもいいというお話がいただければ、当然、今の話のように、当日に限って御都合の悪いという方もいらっしゃるものですから、そういう方にもお話の内容をお伝えしたいというふうに思っているものですから、そういった場面場面で、なるべく多くの方に届けるような対応をしたいというふうに思っています。

村田委員 今の話のところ、ビデオというお話は、以前にも少しお話した記憶があるのですが、肖像権ではなくて、何とか権とか、いろいろなものがあるわけですが、いずれにしても1回こっきりは非常にもったいないという意見です。何か聞き及びましたが、来年からですか、ケーブルテレビのチャンネルを市が保有するようになるかという話が何かありまして、コンテンツ不足だとかという話も聞いています。そういう意味で、情報をどう露出していくかという意味では、1回こっきりでなくて、やはり複数でより多くの方にとというのは基本だと思うのです。多少、お金がかかってもいいから、そういうことで本来の目的が達成できるのであれば、そこまでの交渉というものもやってみてもいいのかなというような気がするのですが。たぶん、その辺は、ギブアンドテイクの関係をつくれればいいと思うのですけれども、せっかく来てくれた方も少ないギャラでちょっと肩を落しながら帰っていくことを考えれば、このあと、逆に、こういう形でできますということで、多くの方に、その方自身の話を聞くような説明の仕方をしていけば、何と言いますか、コマーシャルベースでやっていらっしゃるところでなければ、何とか交渉もできるのではないかという気もするのですけれども、御検討いただければと思います。

百瀬委員長 ほかにありますか。よろしいですか。それでは、また、今の御意見を参考にさせていただいて、事務局でさらにいいものになるようにお願いしたいと思います。

○報告第2号 11月の行事予定等について

百瀬委員長 次、報告第2号、12月の行事予定等について、これも資料をいただいておりますので、補足等ありましたらしていただいて、なければ委員の皆さんからの質疑。

加藤こども教育部次長（教育総務課長） 18日の定例教育委員会、一番右側でございますが、全員

で御出席のほうをお願いするということで、教育長のみの記載になっておりますが、申し訳ございません、よろしくどうぞお願いします。

百瀬委員長 それでは、委員の皆さん、何かありましたら。よろしいですか。それでは、今の定例教委は18日金曜日ということでお願いします。

○報告第3号 後援・共催について

百瀬委員長 次、報告第3号、後援・共催についてであります。これについても資料の4ページですね、4ページだけですね。記載のとおりであります。委員の皆さんから質疑等ございましたら。

村田委員 チラシも出ていますが、ネット社会の中の子供たちという。

百瀬委員長 きょうのチラシですね。

村田委員 先日のPTAの懇談会のときも大きな話題になったわけですが、たぶん、これは通信のほうなので、経済産業省のほうの関東甲信越の何とかがやって、それを情報企画課が受けたというような形ではないかなと思うのですが、どのような内容になるのかとかいうか、どういう意向を持った方のお話なのかと、その辺を少し聞きたいのですけれど、この先生のお話が。

百瀬委員長 おわかりいただけますか。

村田委員 安川さんという方の。

加藤こども教育部次長（教育総務課長） 申し訳ございません。この中身について、正直なお話、細かいお話は聞いてございません。タイトルのネット社会の中の子供たちの危険性についてはうたっていただけということでございまして、共催の中で塩尻市教委とPTA連合会を、先般もお話しさせていただきましたが、うたわさせていただきましたということでございまして、詳細については、情報の指導主事の長畦先生と接触がございまして、この方については子供たちのネット社会には大変造詣が深く、子どもの目線、親の目線に近い形のお話があるということはお聞きしております。

村田委員 では、期待させていただいて。

続けてもう1点ですが、32番の伊藤かおるさんの保護者向けフォーラムとしか書いていないのですが、この辺の、もう少し情報を、どういう内容なのかということをお教えいただきたいのですが。

百瀬委員長 お願いします。

白木生涯学習部次長（社会教育課長） 申し訳ございません、手元に資料がございませんので、また、のちほど目通しをお願いいたします。

百瀬委員長 この伊藤かおるさんって、県の教育委員の伊藤かおるさんですね。

村田委員 たまたま、何と言いますか、教育委員会のほうで進めているものと同じようなあれですね。そういう中で、どうやってうまく、目的がたぶん1つだと思うので、あっちは知らないよということではなくて、どうかかわれるかということをしっかり考えていってほしいなと思います。

百瀬委員長 これは、何かチラシとか、そういうものはないのですか。

白木生涯学習部次長（社会教育課長） 来ていると思います。

百瀬委員長 もし、何かあったら、あとで、コピーか何かで。

村田委員 たまたま、今回、非常に関連するテーマが多かったものですから、そういうふうにしたのですが。連携だけでは、たぶん、まずいかもしれないのですけれど。先ほどの行事の報告とかあって、いろいろな機会があるわけなのですけれど、たぶん、分散しているところもあると思うのです。同じようなことに対して、あっちでもやっている、こっちでもやっている、ようわからんとか。そういう意味では、いろいろなイベントを束ねて大きな目的につなげるという手もあるし、外部との連携によってさらにまた集客をましたり、内容の充実がはかられたりというようなことも

あり得るのではないかなと思うので、ぜひ。まずは、一たん、どういう共催のお申し出はどのような内容なのかということと、逆に連携できるところは、ぜひ、考えていってほしいなと思います。よろしくお願いします。

百瀬委員長 よろしいですか。ほかにありますか。ないようでしたら次へ進みます。

○報告第4号 平成21年度事業通知票上半期取組み状況について

百瀬委員長 報告第4号であります。平成21年度事業通知票上半期取組み状況について、報告をお願いいたします。資料はいただいてありますけれども、少し私自身も不勉強で、どういう観点で、その通知票というものの趣旨について説明していただきたいと思ひまして、中身は記載のとおりでよろしいです。

平間こども教育部長 事業通知票という形をとっていますけれども、いろいろな、今、施策やら事業やらイベントを開催しているわけでありまして、その中で、市長に直接持ち上げて報告をして、また、市長さんからの考えがあれば、それをいただくという意味で、何と言うのですか、交換便ではないのですが、市長さんに上げて、市長さんからまた御指摘をいただくというような形をとっているものです。数がいっぱいありますので、どれを上げるかというようなことについては、主なもの、あるいは課題のある政策、あるいは市長に知っておいてもらいたいものというようなことがあります。各課で2つか3つくらいというような形で、全庁的に、これは行っているものがあります。

要は、事業全体について評価する機会というものとはそんなになくて、行革のほうでは、行政評価みたいなことをやっているところがありますけれども、ある意味で言いますと、これは事業評価と言いますか、そういう部分でありまして、無駄をなくしたり、効率的にやったり、一層の効果を上げるためにはどうしていったらいいかというようなことを、自分たちでもその時点で考えを上げて、また、市長さんの見方は違う部分もあろうかと思ひますので、そういう御指摘をいただくという形のものであります。ここでは、だいたい1年間のものにしてありますので、中間の評価ということでは、少し順調という表現が多くなっていますが、順調というよりは、一応、当初の計画どおりにはいっていますよということでありまして、中には、少し課題も抱えているものがございますので、上半期の成果ですとか反省にたつて後期をどうしていくかということを考えたと思ひます。また、後期だけでなく、将来にわたってまで、これをどういう方向で持っていくのかということは、当然あるかと思ひますので、今後、予算編成ですとか、そういった形の中で、これについて活かしていけたらいいというふうに考えていますのでよろしくお願いします。

百瀬委員長 ありがとうございます。ただ今、趣旨と言いますか、説明いただいたわけですが、私も、私から、もう1つだけ。これは、市民へもホームページ等で公開されているわけですか。

平間こども教育部長 これは、ホームページには載っていません。

百瀬委員長 載ってない、あくまでも内部の。

平間こども教育部長 内部です。市長との。

百瀬委員長 市長ですね。

平間こども教育部長 それが趣旨です。

百瀬委員長 そういうことでやっているのですね。もう1つ、すみません。今、事業、各課で2つか3つピックアップしたという、その観点と言いますか、その辺はどうなっているのか。いわゆる、今年度の主要事業というのですか、主要事業と言ってもいくつかあったと思ひますけれども、その中で特に重点的に取り組んでいるとか、そういうことでも、どうもなさそうな気がするもので、少しその辺が、ピックアップ、なぜ、この事業がいくつかある事業の中で対象になっているかというあ

たりが、少し見えにくいような気がするので、その辺。

平間こども教育部長 選考する規定、決まりがあつて、どういったものに適合したものを選べというものはありません。したがって、今、委員長さんがおっしゃられるように内容がバラバラです。イベント的なものもあれば、事業的なものもあれば、政策に係るものという、いろいろありますが、これは、重要でないものは上げてないわけですし、たくさんある中で、その課なりの判断で市長さんに報告が必要と思われたり、また、市長さんから途中で御指示をいただくようなものが必要という部分での判断を各課でさせていただいて、拾い上げているということです、明確にこういったものは上げなさいという基準は、今のところありません。

百瀬委員長 ありがとうございます。委員の皆さんからどうぞ。

村田委員 市長にこの辺を報告されるということは必要なことだと思うので、いいかなと思うのですが、前回からずっと言っているように事業年度に対して半期というところでの中間をチェックするという意味では、本来は、マネジメントシステムの中に組み込まれているべきだろうし、半年がいいのかどうなのかわかりませんが、クォーター単位でやるという手もあるし、毎月やるという手もあるだろうし、そういう中で誰に何を伝えるかという意味での位置づけとして、例えば、部長が最初におっしゃったように事業の進捗状況ですね、これをざっと見ますと2つくらいしか分類がないですね。だから、これはある意味ではあまり情報にはなっていないくて、目のつくところ、なぜ遅れているのですかくらいの話しかできないはずなのです。本来だと、これが、前回の指標の話がありましたけれど、指標がどこまで達成できそうなのかとか、何か、そういう共通の物差しにすべきではないかという気はするのです。でないといふ非常にあいまいな表現になっていたり、では、順調に進んでいるのだから、我々がどういう立場をとるかというのはあれですけど、例え意見を言うにしてもですね。結局、ゴールになってからだめでしたという話になっても、本来、協働でやっている、一緒にやっているという思いからしたときに、進捗の方向については、少し御検討いただきたいなと思います。

こういう紙ばかりつくるのは非常に馬鹿らしい話なので、うまい方法と言いますか、いつ、誰に何のために報告するかみたいな話の中で、トーンは違ってくるのかもしれませんが、ただベースの資料は、共通のマネジメントの仕組みの中から出てきているというような流れがふさわしいのではないかと思いますので、再度、再度と言うか、少しずつ良くしていきましょうという話です。よろしくお願いします。

百瀬委員長 企画課ですか、主管課は、その取りまとめは。

大和生涯学習部長 最初これを試行でやったときは、毎月毎月出していたのです。毎月毎月出すのは、ある程度イベント的なものがあつたのですけれど、なかなかそういうイベントのない課もあるものですから、先ほど平間部長が言ったように、課ごとによってすごく基準が違うものですから、それではばらばらになるということで、言われたように毎月毎月では事務量も大変ですし、進まないような事業もあるわけですから、半分くらいが伸ばしてきたというような経過で、少しずつ見ながらやっていくとか、改善はしてきておりますので、よろしく御理解をお願いしたいと思います。

丸山職務代理 今の点なのですけれど、そうしますと、今のこの時点で特記するような、つまり各課ごとにこれに重点を置いてやっているというように見ればいいのか、それとも、今年度特にこれを、と申しますのは、例えば、教育総務課の特色ある教育施策の推進（ものづくり教育）、広陵中学校のこれがあがっていますが、例えば、授業計画を立案したというのは、学校が立案するのではないですか、それで、教育委員会がですか？この内容が、年間を通して、教育総務課の、ここで特にあげなければいけないことなのかという素朴な疑問があります。今まで、ものづくり教育は知らないわけではなかったのですけれど、塩尻市の特色ある教育施策というのは、例えば、少人数にすごくこ

だわって、個に応じてということだと受けとめていたのに、これが上がっていると、では、それに対して、例えば、こんにちは教育委員会で行って施策評価にもなる、学校側から先生方が厚く見てもらってありがたいよという話は、全然、噛み合わないことになりますし、どの視点でこれをあげてきたのか、まずわからないのということが1点。

もう2点ですけど、家庭教育室で、教育センターと家庭教育室との連携による支援対策が図られたという具体的なことですが、私は教育センターをもっと活用すればいいと思っていて、人的な支援が必要な学校がたくさんあるので、できれば、センターの自由に動ける先生だと、もっと連携して動いていただければいいなという思いがありましたので、これがうまく図られたとありますから、具体例を1点でいいのでお聞かせいただきたいというのと、あと、もう1つ、6番の家庭教育室でノーメディア運動の推進とあります。これは、これから大きなテーマにしてほしいと思っておりまして。これが、もしかすると今度の川島さんの講演になるわけですか。ノーメディア運動というものは実際に行うのはものすごく大変なことで、保育園の子ども、保護者を巻き込んで、実際に生活記録表とかを見ながら、家庭ぐるみでテレビなどのメディアのスイッチを消すという取り組みをしなければいけないので、骨が折れることになります。それゆえそれをやったから良かったねという効果を確かめ合いながら続けていくという、とても大事な事業だと思うのですが、講演会だけで終わってしまうと、これは、やはり、難しいかなというふうに思うのです。ですから、推進とあって、評価もとりわけ進んでいるとなるので、これも、どのような計画を立てておられて、進めようとしておられるのかをお伺いしたいと思いましたけれど。

百瀬委員長 個別のものがいくつかありましたが。お願いいたします。

加藤こども教育部次長（教育総務課長） 教育総務に係る特色ある学校教育施策の推進（ものづくり教育）ということで出させていただきました。今までにつきましては、企業化教育ということを中心にしながら行ってきて、トレーディングゲーム、金という部分が目先に転がってきているというところがございます。今年度から実際に手を動かし、木材を削る体験型のものに少しシフトしてみようかということで、広陵中学校をモデル校に上げたという、新たな新規であったものですから、ここに出させていただいたということでございまして、決してほかの授業について、課題から始まっていくつもの部分がございまして。これも継続して行っており、結構、羅列するのではなくて特色があって、今回、初めて出たものを今回ここに載せさせていただいたということです。先ほど部長のほうからご説明しましたが、それが、一貫した方程式がそれぞれがあって載せている部分がないものですから、少し違和感があるのかなという感じはしているところでございます。

田中委員 それに関連しまして。

百瀬委員長 今のものづくり教育のこと。

田中委員 はい。ものづくり教育で、前期の第四次塩尻市総合計画のほうには、このものづくり教育について、商工課と教育総務課が担当課になっておりまして、この前見させていただきました後期基本計画素案のほうには、小中学生のものづくり教育の推進の中に教育総務課が担当課に入っていないように見受けられたのですが、その点につきまして、商工課のほうで主に進めていくように後期ではお考えでしょうか。

加藤こども教育部次長（教育総務課長） ものづくりという、一応、大きなグローバルの世界の中では、日本のものづくりが頭でっかちになってしまう、本当の技術的なものも欠けているし、しかし、リーダー的な、一般にこういう言葉を使っていけないかあれなのですが、エリートという部分の引っぱっていく集団が必要なのかという部分と、双方をミックスしてやっていかなければならないのだらうなということ、私は個人的には感じております。商工のほうで動かして、今までいただいていたものは、ものづくりの中でもITに絡まる部分、または、一部では、商工会議所がら

みの子ども科学探検団等々、理科教育の延長でそういう部分に興味を持っていただこうというヒントを与えるというような部分も今までやってきたように思っているところでございます。今回、後期の総合計画の中で、教育総務が載っていないではないかという御指摘でございますけれども、まだ、最終、最後まで行っておりません。いずれにしても学校現場でものづくり、または、そのITに係る部分、企業化に係る部分、やはり、芽を出させていかなければいけないと思っておりますので、再度、検証しながら指標の部分もこれからまだ検証されていきますので、その中で、いくつも並べたくないという部分もあるというようなことも聞いておるものですから、最終調整、まだ完全には至っているところではないようなものですので、よろしくお願いしたいと思います。

百瀬委員長 その他の部分について。室長から。

小澤家庭教育室長 丸山委員さんのご質問の関係で、教育センターとの連携の部分ですけれども、本年度は、教育センターの先生方の具体的な御協力ということで、朝、私ども家庭教育室の朝礼に出席していただいております。それが1つと、あと、学校へ、私ども相談に出向く際に、教育センターの先生方には学校の担当がございまして、そちらの担当の先生にも御一緒に行っていただくというところが、今年、大きく2つ変わった点でございます。また、個々の内容によりましては、こちらへお問い合わせいただければ、この子の事例に対しては、こういうふうなかかわりができた等お話ができるかと思ひますし、先生方は、やはり私どもとは違ひまして、学校現場では経験豊かな方たちですので、ぜひ家庭教育室でも先生方の御意見、御指導を承りながらしていきたいと思ひているところです。

また、市民運動のノーメディアの関係なのでございますけれども、今年は生活記録表の中に1つ、親子チャレンジタイムという項目を設けさせていただきました。いきなりノーメディアという話は、今の御家庭の状況、社会の中では難しいのではないかとということが推進委員会のほうで諮られまして、御家庭にあった状況でメディア時間を少しでも減らしていただけるような表をつくって、そちらを配布させていただいております。

また、川島先生につきましては、早ね・早おきの基本の部分に本当にふれていただける先生ですし、また、テレビとゲームについても脳の仕組み等を説明していただきながら御説明いただける先生ですので、講演は昨年の清川先生に引き続き内容的にはつながりがあって、また更に発展があるものと思ひております。

平間こども教育部長 少し総体的なことを申し上げておきますが、ここにあがっている事業は単年度ということではなくて、先ほども申し上げましたが、いっぱい事業があります。ですから、柏茂の件にしても、2番目の家庭教育の問題にしても、いろいろな体制をとったり、方策をとってやっているわけですが、今回の場合は、これについても連携がとれたということで、その内容について、今、申し上げたところでございますけれども、こういったことを踏まえて、これについては、まだ機能アップしていかなければいけない問題だと思ひています。これでいいということではないものですから。1つには、教育委員会と教育センターが離れているという、物理的というか、距離的な問題もあるでしょうし、それは、ここの下半期の方向性の中にありますように、図書館が移動すればワンフロアが確保できるので、そういった面での距離感というものは詰められる部分があるでしょうし、もう1つには、更に機動的で柔軟性のある、そういう対応も必要になってくるということですから、それぞれが、今、連携しあってやっておりますけれども、そこに1人、先導役と言ひますか、コーディネーター的な役割をする方を新年度では配置をしていきたいというふうに考えています。ですから、将来、これはまだつながっていくものでありますので、その中で、ことしの場合は、これを市長に報告したかったし、現状ではこうなっていますよということなものですから、そういうふうに見ていただければありがたいかなと、よろしくお願いします。

村田委員 先ほどの話の続きになるのですが、これを見させていただいて、こういう手もあったよねという話で、日々苦労されている御担当の方にとっては全く失礼なあれなのですが、確かにこういうものがあったよねというようにところもありまして、逆に、年間のいろいろなPDCAサイクルの中で、例えば、協議会のときでも構わないのですが、今、どんなテーマが動いていて、どこまで行っているか、重要なことは、これは、わりときれいに書いてあるのですけれど、本来マネジメントだったら課題は何ですかということが明らかになっているかなのです。ここまで行きましたよという、行っていますよと、残る課題は何ですかというところをやらないと、たぶん、マネジメントにならないと思います。そういう意味で、こういう日常の事業を管理されている一覧というか、なったものというものは、各部の中ではあるのでしょうか。

百瀬委員長 その点について、お答えいただけますか。

平間こども教育部長 チェックをしていくものについては、この前見ていただいたのかな、目標を置いて指標をつくったりしているものがありますね。庁内的には、あれになるでしょうかね、指標をもってチェックをしていくというものは。それも全部の施策を、やはり載せられないのですね。ですから、その全部の施策について、各部、あるいは各課において、そういう、今、おっしゃられたようなチェックができるようなものがあればいいかと思うのですけれども、今、ごらんいただいているものについても、その中のうちの一部なのです。各課や部でやっているものの中の一部なのです。全部というわけにはいかないでしょうけれど、そういったものをチェックできるような方法というものは大事なところなように思っています。ただ、言い訳になるかもしれませんが、非常に、今、日常の仕事量が、正直なところふえてきていますので、どうやって効率的にそれやっていくかということが一番問題になりますので、また、その辺も含めて検討をしていきたいと思っています。

村田委員 そういう意味で、新たに資料をつくるのではなくて、日常マネジメントされているそのもので報告をいただいたり、意見交換ができていけばいいのではないかなというふうに思ったものですからお願いいたしました。これを見ていて、次は各論の話なのですが、2点だけ、この中身についてよろしいでしょうか。

百瀬委員長 はい。

村田委員 一番目が柏茂会館の話です。確か、去年のまだ雪が残っているときに見に行って、どうやって攻めようかという話とかがされたのだと思うのですが、この評価では、例年並みの利用であるが新規利用が少ないということでもあります。具体的にどういうアクションをやられて、どうだったのかということをお教えいただければと思います。

小島こども課長 上半期の取り組み状況に詳しくは触れてないですけれども、右側の下半期にありますように、企業での活用という考えが出てきます。実際は、この上半期の中では学校の先生方に現場を見ていただきまして、いわゆる校外活動の中で活用できないかということを検討していただきました。その中では、ないというふうな結論でございました。そうしますと、一番私どもが期待するのはそこだったものですから、なかなか後のほうが困りまして、一般企業では場所が場所ならば、逆にああいふ田舎の奥のところが好まれるという状況もあるのかなというふうなことで、こちらからも少し、定期的に使っていただいている方もあるものですから、そういうところからお話をさせていただいて、1カ所と言いますか、1社、ここなら長野県観光の拠点になるとか、あるいは、体験農業の宿泊施設として使えるのではないかなというふうな感触がございました。下半期の中ではそういった民間サイド、企業のプランが具体的にになれば、そちらに舵を切る方向で、庁内の調整もあるものですから、少し考えてみたいなというふうなことを考えているところです。

百瀬委員長 はい、よろしいですか。

村田委員 そういう意味では、何もないところというか、変ですけど、新しく切りくずしていかなければいけないところ、非常に大変だと思いますけれども、どういう形になるのが一番良いのかというのは、5、6は少しはつきりしませんけれど、早くどこかへ売却してしまったほうが良いのかもしれないのですけれど、という話もあるかもしれませんね。

平間こども教育部長 今、ちょうどたまたまどこかへ売却したらというお話が出たのですが、昨日の今日なものですから、ここには載っていませんが、昨日、監査委員さんのこれまで監査してきた内容等を部長に伝えていただいた部分がありますけれども、この部分につきましても、当然私どもとしてはせっかくいただいた施設ですし、環境的にも、今、自然に親しんだりですとかそういう部分が重要視されてきている中にあるのは、有効に使いたいとは思っているのですけれども、施設自体がもう非常に古いという、現実とは合わない部分もありますので、そういう中では、もちろん活用の方法を考えていきますけれども、その一方で、今おっしゃられたような売却ですとか、地元払い下げて何か有効活用していただくとか、そういった方向も考えたらどうだという御指摘もいただいています。ここには、昨日の今日で入っておりませんが、そういった方法も含めて検討させていただきたいというふうに思っております。

村田委員 あと2点お願いいたします。

百瀬委員長 はい、どうぞ。

村田委員 これも非常に重要な問題で、3番目のところなのですが、これはたまたま先ほどのものづくりというところで教育総務課がかかわったということなのですが、逆に、毎年各学校のプランと、実績があれに載っていたかあまり記憶がないのですけれど、ファイルして渡されます。迷惑です。これかどうか、たぶん、この部分もあると思うのです。そういう意味で、活かすという意味で、たぶん校長会なりそういう場面では、うちではこうやったよというような報告と言いますか、たぶんベスト・プラクティスみたいな、うちではこんなことをやったので、皆さんどうですかみたいな、そういうことで相乗効果になっていけばというふうに思うのですが、この辺は教育長が受けていらっしゃるのかどうかかわからないのですけれど、我々にも各学校でこんなことをやって、この学校はこんな特徴ですよみたいなことがもっと具体的に見えるようにしていただきたいなと。逆に言えば、もっと表彰制度を作っても良いと思うのです。この辺を達成してこうできたというような形で。ついては、そこで、怒られていますか、止めます。そういうことで、いいところはやはり褒めなければいけないし、みんなでいいところをというような流れをぜひ作っていただきたいので。これはたまたま行政上の評価かもしれませんが、本来の学校教育の現場の中で何が行われて、どういう報告が出たかというのを、もう少しわかりやすい機会をつくっていただきたいというふうに思います。

すみません、長くなって。最後です。地域見守りシステムです。一昨日も御報告をいただいたわけなのですが、インフラとしての中継機の増というのは、たぶんインフラ整備が上がっていく方向でいけるのではないかなと思うのですが、利用率ということと補助金を使ったということに、少し。その観点で指摘です。これだけのことを市単独でやるというのは、非常にできないことではあると思うのです。だいたい、どこでしたっけ、燕三条ではなくて、どこでしたか。どこか拝見させていただきましたけれど、非常に無責任なのです、進め方が。補助金を使うなら使っただけでいいやと、後はどうでもいいやというような話になってしまうのです。この仕組みのライフサイクルを考えますと、今の機能に対してここをこうしたいという話は絶対出てくるはずなのです。それを読んでおかなければいけない。で、さらに使ってもらおうということで、良いスパイラルのほうに持っていかなければいけないところを、逆に、お金がないから改造もできませんと。たぶん10%はどんどん下がっていくでしょう。あの事業は何だったのかという話のときに、誰が責任を取るのと

というような流れにならないように、本来だと、最初の立ち上げと、それを使っていくときの運営費とか改造費とかいろいろなものが掛かると思うのですが、未来永劫やれとは言いません。どこかでメディア・チェンジをやっても良いと思うのですが、何か単発的で、予算が来たから使ってみるわいと。ではなくて、やはりこれだけ市民に対して協力をいただいているものですから、お金がないのでできませんという話というのはできなくなると思うのです。これだけ負担していただいてやっているわけですから。そういう意味で、本来は収益モデルというのですか、入ってくるものと出てくるものの長期的な計画を持っていながら、やれるやれないという話をしないと、大きな問題になると言わざるをえません。

たぶん、あのSIPでしたか、あそこのほうで金子さん達が次をやってらっしゃるのだと思いますけれど。どういうふうな便益があれば、もっと子ども達にとって意味のあるものになるか、というようにところがあると思います。全部はできないにしても、例えば2年後にはこうなりますとか、そういうようなことを明らかにすることによって、では使い続けてみようかとかという話になると思いますので。プロモーションも難しいし、認知度を上げていくということは非常に難しいのですが、いまだにまだ10%レベルだったら、何もなければ、たぶんシュリンクしていくような気がします。そういう意味で、どんなふうにコミットしていくかという、その責任というものはあると思います。長野無線が高いことを言うてくるのだったら、どうするかというようなことも技ですよね、そんなことをやりながら事業という形で継続できることを考えていただきたい。これは、報告を聞いていて少し心配な、せっかくスタートしたのに、これでは少し先行き心配だなというような気がします。多少コメントをいただければありがたい。

加藤こども教育部次長（教育総務課長） 2番目の関係で、最近少しというよりも、今までの動き、ある面では、私どもはユーザーであり経営者であり双方ですね、という部分で動いていると。当初、PTAの懇談会の中で出てきた雨の問題、これは当初から出てきておりました。また、子機が大きすぎるという部分もあって、長野の日本無線とも打ち合わせをし、SIPのほうとも打ち合わせをし、今後の改善に向けた取り組みをしていきたいというところは、今現在いつているのですが、何せ、今、村田委員さんの御指摘のとおり、開発費の問題と、型を作る問題がどうだ、こうだということで、今足踏みをしている。しかし、エプソンさんも何か今検討を始めていただいているというようにお話もいただいている中で、より良いものが出てくるまで待てないですし、私どもは今、新入生の子ども達の親に対して、こういうものにモデルチェンジしますということはまだわかりませんので、現状のものをお見せしながら、現物を見ていただきながら納得いただいてご利用いただくという形でやらせていただき、なおかつ子ども達が、鳴ってしまうとか、ちょっと押すと鳴ってしまうとかいう部分の問題点は提起しながら、改善に向けて取り組んでいくと。すぐには動いていないですが、取り組んではいただいているというふうな状況でございます。

また、特色ある教育施策等の推進の関係で表彰モデルのお話がありました。教育課程にかかわる部分と、それと本当に学校独自で始業前のいろいろのアイデアを持ちながらやっている部分、それぞれございます。こういう中で、例えば洗馬小学校のレタスから始まりまして、エンジョイ体育としてのマラソンだとか体力づくりだとか、いろいろな部分がございます。これについて、校長会等での相互の連携で報告しあったり、体力がついたよというような部分がございます。また、読書の部分もございますし、こういう部分は、こちらの場でもできる限り今後報告させていただきながら、伸ばすべきもの、また、もっともっと伸ばすと言ってももっと大きくしてしまったらどう、というような御意見をいただけるようなトピックス的なものを、できるだけお出ししていきたいということをお願いしたいと思います。

百瀬委員長 はい、ありがとうございました。

御子柴教育長 今の特色ある学校づくりというので、特色というのは目的か、結果という議論があるように、特色を出す学校のカリキュラムを組んでやろうという目的にする場合と、いやそうではない、普通のやるべきことをきちんとやっていくのが結果として特色になるという。こういうところに出てくるのは、ある意味では目的になっているのかもしれませんがけれども。村田委員さん、以前にも御指摘されたことで、今、はっと思ったのですけれども、おらほの学校はこういうことをやっていますと、こんな厚いものを配ってくれても読む時間もないですし。

百瀬委員長 このくらいの冊子のことでしょう。各学校のものをまとめて冊子にした。

御子柴教育長 例えば、それだけのものを時間をかけているということと、もう少し学校のことを知ってもらおうということにすれば、こういうところに来て、1年に1校ぐらいいは、今、パワーポイントでもどんどんアピールと言うか、発信していますので、そういうものを知ってもらおうというのも良い機会かなと。また、こんにちには教育委員会というようなものもやっていますので、あれは、聞くというのを主にしたのだけれど、よく考えてみると学校側では、うちの学校へ委員の方がせっかく来てもらったから、うちの学校ではこういうことをやっていますということも知ってもらいたいというような。15分なり、20分でもとれば、かなりコンパクトにまとめてやる機会もできます。それが良いのは、今年は、「夢・しおじり・子どもメッセージ」ですか、あそこでかなり学校の出されたかなというふうに思っておりますので、工夫していただくことは、発信というようなことも加味しながらできるかなという気がしております。

加藤こども教育部次長（教育総務課長） 今ふとあって、学校の特色も、表面上の特色という部分が一番出ているのは、学校だよりだと思います。基本的に、パソコン等で作っている部分で、発信ができるかどうか確認してみますけれど、できるようなら、委員さんのメールアドレスに発信を、その度、学校のほうからしてしまうと。開いていただいて、あっ、こんなことやっているなとか、広小は全部建たりははじめたねとか、そういうものがトピックスで載ってきますので、少し本来のニュアンスとは違いますけれども、動きをつかむことは可能かと思っておりますので、そのような方法も少し考えてみたいと思います。

村田委員 メールでなくても、逆にこちらから見にいけばいいのですよね。ただ、本当にピンポイントの話だと、流れがわからないのですよね。こんなことやった、あんなことやった、じゃあどうなのという話で終わってしまうので。何を、1年間なりをかけて実現しようとしているのかというのが、わからないですね。たぶん、それに皆さん御努力されているのだと思うのですが。工夫をしていただきたいなという意見です。

百瀬委員長 各々、どこそこへ報告するために、どこそこへ発表するためにすると、それぞれ作っていたのでは大変なことですね。何か、どこへでも割合概要ができるような、そういうようなものを一度作っておけば、それを毎年変えていけば良いというわけで。何かそういうアウトラインがわかるようなもので良いと思うのですね。私どもも、毎月いろいろ聞いてもなかなか、という部分もあります、私自身も。

丸山職務代理 学校要覧という冊子をずっといただいておりましたけれども、最近はグランドデザインと言って1枚の、割と簡素化されたものでいただくようになりました。だから、学校要覧を見れば、こういうものだなというふうに思っていますけれど、それがグランドデザインという一枚になっても少しも遜色ないと言うか、ですから、ああいう形でなるべくお骨折りがなくても伝えることが伝わってくるようなものでお願いしたいです。そうでないと、報告関係がなかなか、どんなに努力されているかということもわからないままに意見を言うてしまうことがありますので。そういう簡単なもので、わかるようなものができれば良いかなというふうに思っていますけれど。そういうものさえあれば、別に良いわけですからと思いますが。

百瀬委員長 また、その辺は工夫をしていただければと思います。ほかにございますか。よろしいですか。ほかの部分、生涯学習部関係のところでは何かあったら。

田中委員 すみません、先ほど言おうと思ったところ、言葉足らずで申し訳ありませんでした。ひらいて遺跡まつりを、今年は伺えなかったのですけれども、何年か伺っているところで、とても良いイベントで、こちらでは計画から実施までボランティアの参画により開催することができたということで、平出博物館友の会の方のことでしょうか、ボランティアは。毎年うまくいっているというノウハウみたいなものを、新しく始まったぶどうの郷ロードレースのボランティアさんたちにそのノウハウがうまく伝わっていけば、今負担感があるということではないのですけれども、負担感なく長期間に渡って続けていかれるかなと思ひまして、先ほどそのようなお話をいたしました。ボランティア同士の情報交換や連携ができていけば良いのではないかなと思います。お願いいたします。

百瀬委員長 はい。いかがですか。何かコメントはありますか、ボランティアについて。

大和生涯学習部長 友の会とスポーツの関係のボランティアの部分は、なかなか結びつきがないのです。平出遺跡のほうは、友の会の方はそれぞれ年間を通じていろいろなイベントがあって、四季折々のイベントに出させていただきまして、非常に思い入れが深い団体の方です。スポーツのほうはスポーツのほうでまた、いろいろな陸上競技とか、今回は陸上競技が主でしたが、それぞれの部がありまして、ここに出ているボランティアというのは、それぞれ地域の方から、公民館の役員さん、分館の役員さんに出させていただいた方が、ボランティアとして今回参加をしていただいたということで。

田中委員 毎年かわっていく可能性がある。

大和生涯学習部長 そうです。陸上競技の関係の方は、あの方たちはもうベテランで、もうボランティアなどというものではなくて、あの人たちに教わりながら私どもやっているような状況です。あと、郷原と堅石の地元の方が非常に、区長さん以下積極的に参加をしていただきました。これには私ども非常に感謝しておりまして、ぶどうもそういう人たちにほとんど結構斡旋してもらひまして、非常に良かったということで。その地元の関係の方はさらに引き続いて、役員の方は引き続きということなものですから、ぜひまたいろいろなことで、今年以上をお願いをしたいというふうを考えておりますのでよろしくお願いしします。

村田委員 私、少し個人的にはサイトウキネンのボランティアをずっとやっています。彼らは彼らのすごい組織の中で、とにかくボランティアとして誇りを持ってくださいということを盛んにやっていて、そういう視点でどう接していくかという。そういう意味では継続性もありますし、ひとつのひな型かなという気がするのですが、たまたま、今回はイベントに対するボランティアということなのですが、市の協働のまちづくりとか何とかという、市民と一体となっているいろいろなキーワードがあるのですが、それをなくして、たぶん市役所だけで何かやろうといってもなかなか大きいことはできない時代だというふうに思っているのです、何にしましても。どうやって連携していくかという、距離感なり、そういうものをうまく、1回出たけれど、もう2度と出ないわ、みたいな話。たぶん脱落者は出る可能性はありますけれど。ただそれを単純に、例えば、体育だったら体協とか、ああいう組織に依存するのではなくて、どうやって関係論を維持していくかという仕組みと言ひますか、それもこれからの大きな、市役所がコーディネートしていくためのあの役割りだと思うのです。きょうは清水さん、来ていないけれど。清水さんですよね。

百瀬委員長 今日は出張です。

村田委員 苦勞されているところとか、いわゆる、種を植えて、今、育てているところだと思うのですが、ああいうところの動きとうまく合わせることによって、それこそ塩尻モデルができるのではないかなという気はしています。田中さんが言われた話のところ、すごく重要なことだと思うので、計画的なり、シナリオ的にうまくやるような仕掛けもぜひ作っていただきたいなと思いますの

で、よろしくお願いします。

百瀬委員長 はい、ほかにありますか。はい、どうぞ。

丸山職務代理 4の社会教育課の多様化する現代社会に対応する学習活動というところで、先日の新聞にメイクアップ講座に大勢の方が参加希望があつて抽選となつたなどという話が新聞に載っていましたけれども、地域課題や生活課題に即した学級・講座を開催していくという、この視点はすごく良いなというふうに思いますし、何回か今年も講座に参加希望を出しましたが、抽選でもれたということがありましたので、けっこう人気の講座があるのかなと思っております。この講座を、どういうものを選ぼうかというときには、どのような方々の意見とかがあつてお決めているのか、ちょっとお伺いしてみたいなと思いましたが、

百瀬委員長 はい、その点についてお願いいたします。

白木生涯学習部次長（社会教育課長） 今の、冒頭の婚活については、団塊世代ののじゅ〜るの会というところで、ことし婚活をやってみようということで計画いたしました。今おっしゃったように大変好評で、しかもやはり市民タイムス等の新聞に出たら、松本圏域から多くの方が御応募をされて喜んでおります。ただ、多少男のほうが多いのかなというところですよ。

あと、イベントをどのように選ぶのかということについては、中央公民館の運営審議会ですとか、それから、講座を設けるときに、中央公民館、地区館の館長さん方と館長主事会議というものを月に一度やっておりますし、そういう中で次年度の講座をどれにしようかということを決めております。今年は、ガリレオのちょうど国際天文年ということもあつたものですから、その時代に合ったようなものを取り入れるというふうな、そんなところで選ばせていただいております。

百瀬委員長 よろしいですか。ほかにありますか。

村田委員 ちょっと唐突な意見になりそうなので心配なのですが、人権の話なのですが、私の理解が不足しているのだと思うのですが、ここしばらくの活動を見ていると、人権をベースにして少し拡大した形でいろいろ活動をやられているような気がしています。その人権のところは、本来のミッションが何なのか、私もよく理解していないのですが、これは非常に大きな提案なのですが、来週ですか、義家さんが来ます。義家さんの最近のひとつは、道徳の教科化ということを行っているのです。やはり、非常にいろいろな病んでいる子ども達がいるとか何とかの中で、私、個人的に小学校のことを考えても、あのころに先生が教えてくれたいろいろな道徳的な気持ちのところというのは、すごく残っていて、ある意味で自分のひとつのベースになっているのかなというふうな気はしています。教科にすることが目的ではないのですが、道徳の時間というのは、どういうふうに教えるか、接するかというのは非常に難しいのですが、非常に意義のあることだというふうに思っています。人権の話とどうつなげるかということなのですが、これは非常に大胆な提案です。たぶん、何かそういうことで組織上の制約はあるのかもしれないのですが、人権を道徳教育とか、それは生涯学習としてもそうですし、子どものころもそうですし、そういう観点で自分たちのドメインを広げることによって、もっと先にいろいろな活動ができていないかなという気はするのですが。言葉足らずですが、人権というと、今どれくらい多く問題が存在しているのか、これすら理解していない状況で、ただ、道徳なり人の心とかなつたときに、非常に大きな問題がある。そこに活動の原点から広げていく何かがあるような気もするのですが。言葉足らずですが、キーワードは人権から道徳という観点で何か考えられませんかという質問です。

百瀬委員長 では、よろしくお願いします。

小穴人権推進室長 今、人権課題というのは12項目あるということで、同和問題を始め、女性の問題とか障害者の問題とか、いろいろあります。それで、今、各地区で学習会を開いていただいておりますけれども、いろいろなテーマでやっていただいておりますが、その中に、やはり今お話のあつ

たような道徳教育のような内容も含まれております。例えば、同和問題というふうに限ったことでなくて、身近な人権というようなことで、普段何気なく行動している中にも相手を傷つけてしまうようなことがないかというようなこともやっておりますし、また、地域をよくするにはどういうふうにしたら良いかというようなこともやっておりますので、その辺に道徳問題というものも入っていると思っております。

御子柴教育長 今のことに関係して、きっと人権教育というのは、キーワードは、あらゆる場面、あらゆる活動の中で人権教育は行われなければならない、あるいは、行われる場があるということだと思います。今、この場であっても、人権意識とか人権感覚をもって話していただくということはあるわけです。昨日、小学校で偶然、先ほど少し話した吉田小学校の公開授業で教えていただいたのですが、6年生と3年生とがあいさつを交わすという場面で、これは大人の社会でそのまま出てくるのですけれども、3年生が6年生のあいさつの仕方に対して、本当に声を掛けてくれてうれしいが、時々あっちを向いてあいさつする人がいたりとか、声がろくに聞こえないあいさつを6年生がしたりとか、そういうのを聞くと何か無視されているようだというような場面をとらえて、学習をしているわけです。そこにはまさに、子どもたちの人権感覚を高めていく授業が成立しているのだと思います。あらゆる場面、要するに、教科の授業の中でも人権意識というのは、常に持ちながらやっていかなければならないというのが、今のキーワードではないかなと思います。社会的には、先ほど小穴室長さんがおっしゃいましたような男女、あるいは子ども、あるいは病人、障害のある、あるいは外国籍の方々等々、場面を幾らでも挙げてあるのですけれども、実際にはもっとあらゆる場面で高めていかなければならないというのが、キーワードになると思っております。

百瀬委員長 はい、ありがとうございました。はい、どうぞ。

丸山職務代理 今のお話ですけれども、先ほど、村田委員さんが教科化ということをお話しされて、実はもっと慎重にならなければいけないかなと思います。今、教育長が吉田小学校のあいさつの紹介がありました。あれは、朝元気にあいさつをすると、児童会役員の子が葉っぱをくれます。その葉っぱを各学年の廊下に木が貼ってあって、もらった葉っぱを貼っていくのですけれど、1年生から順番に見ていくと、低学年ほどいっぱい葉っぱがあるのですけれど、5、6年生になると葉っぱが少なくなります。それはなぜかと言うと、みんなの前で元気にあいさつをするということは、仲間同士の、ネットいじめではないのですけれども、馬鹿じゃないかとか、そういう子ども同士の難しい関係を人権感覚も含めて、ものすごく慎重に考えなければいけなくて、外に現れるから内面がそうかと言うと、そうではないのですね。だから、その辺もやはり考えていつてあげないと、決まりだけを作って、こうなったから、と単純には量れない。では昔の正義が全て良いかと言うと、正義は立場によってすごく変わりますし、そういう点ではものすごく慎重に、特に評価にも絡んでくるですし、村田委員さんの気持ちはよくわかりますけれども、道徳の教科化ということについては、ちょっと慎重にと思ったのですけれど。

村田委員 それはちょっと。実際の教科とどう違うのかという、それすら私はわかりません。ただ、強化として扱うくらい、今社会問題として重要なのですよということでは、まず理解していただきたい。

丸山職務代理 評価が付くので。教科になると、評価をするということになるのですよね。評価をするということは、やはりテストで目に見える形の評価をしなければいけないので、そうすると、子ども達同士の間でも、人を見ながら行動を決めていくところがあるので、なかなか難しいのではないかというお話です。

村田委員 たぶん、難しいことは難しいと思いますよ。

百瀬委員長 学習会が非常に必要な部分だと思います。協議会等の中でも、我々委員同士のそういう

学習活動という場がありますので、またその場でも事務局の皆さんともね。大事なことだと思いますけれども、共々課題を共有して、やはり常にディスカッションというような部分は必要な部分かと思いますが、きょうのところはその辺ですかね。

村田委員 はい。

百瀬委員長 あとは、よろしいでしょうか。時間が1時間半近くなりましたが、教育長報告については以上で終わりにします。

あと、きょうは議事がないものですから、その他の議題は、たぶん10分ぐらいで終わられるのではないかと思いますので、休憩を取らずに続けたいと思います。よろしくお願いします。

5 その他

○その他第1号 教育委員会関連例規改正（案）について

百瀬委員長 それでは、議事がございませんので、5番その他に入ります。第1号は、教育委員会関連例規（案）についてということですが、これも資料をいただいて、私が見ますところ、法改正等による条例改正が必要だと、そういうような、あるいは、要綱の改正ですか、要綱ですね、これは。そういうことですので、これを承ったということではよろしいでしょうか。

では、そういうことで、議会に係る部分はこれはないわけですね。要綱ですので、それぞれのところでということになりますね。

○その他第2号 平成21年度教育委員会関係補正予算（案）について

百瀬委員長 それでは、次の第2号であります。平成21年度の教育委員会関係補正予算（案）と、こうすることで10ページ、11ページということで資料をいただきまして、これも国の補正予算がらみのものが大部分かなというふうに見ておりますので、個々のことについて御説明いただかなくて、委員の皆さんから特に質問があればということで取り扱いたいと思います。よろしいでしょうか。

ありませんか。はい、どうぞ。

丸山職務代理 一番最後の11ページの教育総務課の安全・安心な学校づくり交付金の内容が、太陽光発電と丘中の耐震改修に充てて。

百瀬委員長 歳入のところではなくて。

丸山職務代理 歳入。

百瀬委員長 歳入ですね、はい。

丸山職務代理 これについて、安全・安心なというので、耐震は良いのですが、充てる事業が地域活性化ということも含めてなのだと思いますけれども、例えば、先ほど地域見守りシステムの子機について、使い勝手が悪いという話で購入が進まないといったことがありました。貸与というのですか、購入ではなくて貸与という形の貸し出しをする形で全員に渡してというような形の予算に振り替えるとかいうようなこと。もしこういう予算があれば、できたのかなと思ったりもしますが、それはこういうものに使いなさいというような形で付く予算なのでしょうか。

百瀬委員長 その点について、お答えいただけますか。

平間こども教育部長 この地域活性化公共投資臨時交付金というのは、国の補正予算で組まれているものでして、いわゆる公共投資に係るものですから、100基ここで増設する、そういった施設整備には使えますけれども、いわゆる補助的な部分には使えるものではございませんので、よろしくお願いします。

百瀬委員長 ほかに。はいどうぞ。

田中委員 細かいことで、本当に何も知らずにお聞きしたいのですけれども、安全・安心な学校づくり交付金、地域活性化・公共投資臨時交付金、学校教育施設等整備事業債の歳入補正額が1億3,314万4千円。この2つの交付金と事業債を使用した補正額が1億3,319万5千円です。

百瀬委員長 トータルですか。

田中委員 差し引きトータルで5万1千円差があるのですけれども、その5万1千円は、どこから予算が回ってきて歳出の部分に充てられているのでしょうか。

百瀬委員長 その点についてはいかがでしょうか。

平間こども教育部長 その財源というものには、特定財源と一般財源というものがございまして、一般財源というのは、いわゆる市税とか市が独自で歳入できるものです。ここに掲げてありますのは、国からの、簡単に言ってみれば補助金ということにして、補助金を充てたり、あるいはその残りの一部を、一番下にありますが学校教育施設整備事業債、起債ですね。借金をしてお金を借りる部分と、そのほかに自分が今もっているお金が一般財源ですから、それが5万1千円ということです。ですから、直接一般財源が、一般と言うとあれですけど、持っているお金のことなので、ここには特別財源としては出てこない、ということなんです。

百瀬委員長 よろしいですか。ほかに。

よろしいですか。では、これが12月の議会に提案されると、ということでありますね。

○その他第3号 全国短歌フォーラム学生の部について

百瀬委員長 もう1点、今日いただいたので、全国短歌フォーラム学生の部についてという1枚のものがありますが、おもて裏あります。これの関係で、お願いします。

白木生涯学習部次長（社会教育課長） それでは、全国短歌フォーラム学生の部について、中止をしたという御報告と、それから、今後どんなふうにやっていくかということについて、少し御報告をしたいと思います。

先月の定例教育委員会が10月23日でしたけれども、それ以後、インフルエンザの流行が始まりました。そのときにも各学校から報告がございましたけれども、特に私どもの学生の部については、広丘小学校、吉田小学校の生徒さん、4年、5年、6年生を全員集めまして、レザンの大ホールでということ、なおかつ、100人に上る入賞者をステージに上げまして、表彰式を行うというように、かなりインフルエンザの危険を増すようなイベントになるのではないかなというふうな、そういう心配がかなり寄せられました。それを受けまして、10月29日に短歌フォーラム実行委員会の検討委員会を開きまして、こういう昨今の状況であるということで、早めに中止をいたしました。早めに中止をしたというのは、広丘小学校、吉田小学校がステージの上で発表をしていたのですけれども、その練習は大勢の生徒さんに配役を担っていただくということですが、その中のお一人でも、例えば風邪を引いたときには、その代わりをまた見つけなければいけないというようなことで、大変一生懸命やったけれども、結果、中止だったというふうなことになると思われ、影響が大きいと判断し、1月前に中止決定をさせていただいたということです。

それに基づきまして、選者の先生のほうにも、最終選考会のお話をして進めたわけですが、選者である前の東洋大学学長の神作先生も、やはり昨今のインフルエンザについては、大学の学校見学や入学試験の心配まで大学でもしているというふうな状況で、塩尻市さんの御都合はよくわかったと、そんなお話をいただきました。それを受けまして11月15日に市の広報によりまして、大会を中止するという連絡をしました。

あとの表彰についてどうするかということなのですが、入賞数及び投稿概要を裏面に載せてございますけれども、入賞者の数は全部で103人です。そして、今回、秀作賞というのを今年

初めて設けました。これは、投稿歌が全国から7,835首集まり、第一次選考で約700首を選びました。その中から入賞者数の103を選んだわけですが、今まではその入選歌だけを表に出していたのですが、第一次選考に掛かったものについても秀作賞として学校にフィードバックしたらどうだと。そうでなければ、学校によったらひとつも入賞作がないというふうなことになる、やはりこれはモチベーションの問題で、うちはいっぱい出したけれどもひとつも入賞作がないというふうな状況はよろしくないのではないかとということで、秀作賞として確かに一次選考を通りましたよと、そういう連絡を今年はしたいということで設けさせていただきました。これが新しい取り組みです。

投稿数の比較ですけれど、昨年に比べると6.7%くらい、約500首増というふうなことで、これも、一般のほうもやはり2割増というふうなこともございましたから、これについても今年は増えたのかなというふうに思っています。

学校数は、107校、昨年は89校ですから、これも2割ほどアップをしたというふうなことで、努力の成果が少しずつ出ているかなというふうなところですよ。

11月28日のレザン大ホールでやる選評と表彰を止めた。では、それに代わるものをどうしようかというふうなことなのですが、まずは、今現在、各学校へ、お宅の生徒さんの作品は入選に選ばれたが、これが盗作であるか、未発表であるかというふうな確認を現在しております。その確認をきょうが締め切りになっておりますので、来週は、最優秀賞を、都市大の付属中学校、東京の世田谷にある中学校なのですが、そこの生徒さんが最優秀賞になっているものですから、そちらのほうに一応表彰状を持って贈呈をしたいというふうに思っています。それを済ませて、11月27日に記者発表をしたり、ホームページに流すと。そして、11月28日が大会の予定日でしたので、28日付で表彰状を一斉に出していきたいというふうに思っております。

広報のほうでは、12月1日号に最優秀賞1首、それから優秀賞の3首の4首についての紹介記事を2段くらいのスペースで広報に出したいと。あと、選者の先生方に選評の記事、それから、最優秀賞、優秀賞等々のコメントをいただきながら、これを地方新聞、全県というよりはやはり信毎さんになろうかということで、そこに1ページの半分ですか、4分の1の、なおかつ下に広告が1段ぐらい入ると、70%ぐらいの紙面をうちのほうで買って全県に周知をしたいというふうに思っております。

あとは、2月1日号の市の広報では、2ページ立てぐらいにしまして、市内で今のところ53首の市内の学生さんの入選作品があるものですから、それを発表していきたいというふうに思っています。

今後ですけれども、だいたい協力校には、次年度以降、今年は生徒を集めてのイベントをやらなものですから、入賞作品集ですとかCDを送付したり、また、次年度以降の協力をお願いをしていきたいということを考えています。特に田川高校については昨年から大会の協役ですとか、運営のボランティアとか、それから、高校生の短歌教室とかというようにところに御協力をいただいたものですから、来年も引き続いてお願いをしたいというふうなことの協力要請を続けていきたいというふうに思っております。そのようなことですので、今年は、インフルエンザによりまして、一堂に集めての大会については中止をさせていただきますので、御報告をしたいと思います。以上です。

百瀬委員長 ありがとうございます。質疑等ございましたらお願いします。

よろしいですか。私、今お聞きしておきたいと思いますが、安曇野市が18歳以上ですか、対象のその行事みたいなものを来年2月ぐらいまで、もう中止するというようなそういうこと決めたと今朝の新聞で見たのですが、その辺のところを塩尻市としてどういうふうにこれから考えてい

ったら良いかということもあると思うのですけれども、また、他市町村等の状況等も見ながら検討しなければいけないでしょうね。

御子柴教育長 先ほど、少し言い足りなかったかもしれませんが、今日、庁議というものがありまして、その場で、今までの小中学校の行事、例えば音楽会ですと、合同音楽会とか各校の音楽会、あるいは行事等中止をしてきたのは、今のお話ですと、特に中止していません。今後も、今第二のピークというあたりで、子どものものについては中止していくのが良かろうということです。ただし、大人の講演などについても、これは大人が対象なので十分配慮しながら、今のところは中止まで行かないで、計画どおり実施しようと。しかし、今後どういう影響になるかということについて、今、状況を見ながらという部分もあるかとは思いますが。そんな話し合いが庁議で出されたので、今のところそんな結論になっています。したがって、安曇野とは少し方向性が違うかもしれないのですけれども。教育関係だけでなく、全部の。これも教育委員会だけではないですね、そういう意味です。

百瀬委員長 よろしいですか。

それでは、今日の内容は全て終わりましたので、以上で定例教育委員会を閉会にしたいと思います。どうも御苦労さまでした。

○ 午後3時15分に閉会する。

以上

平成21年 月 日

署 名

委 員 長

同職務代理者

委 員

委 員

教 育 長

記 録 職 員 教 育 総 務 課
教 育 企 画 係 長
